

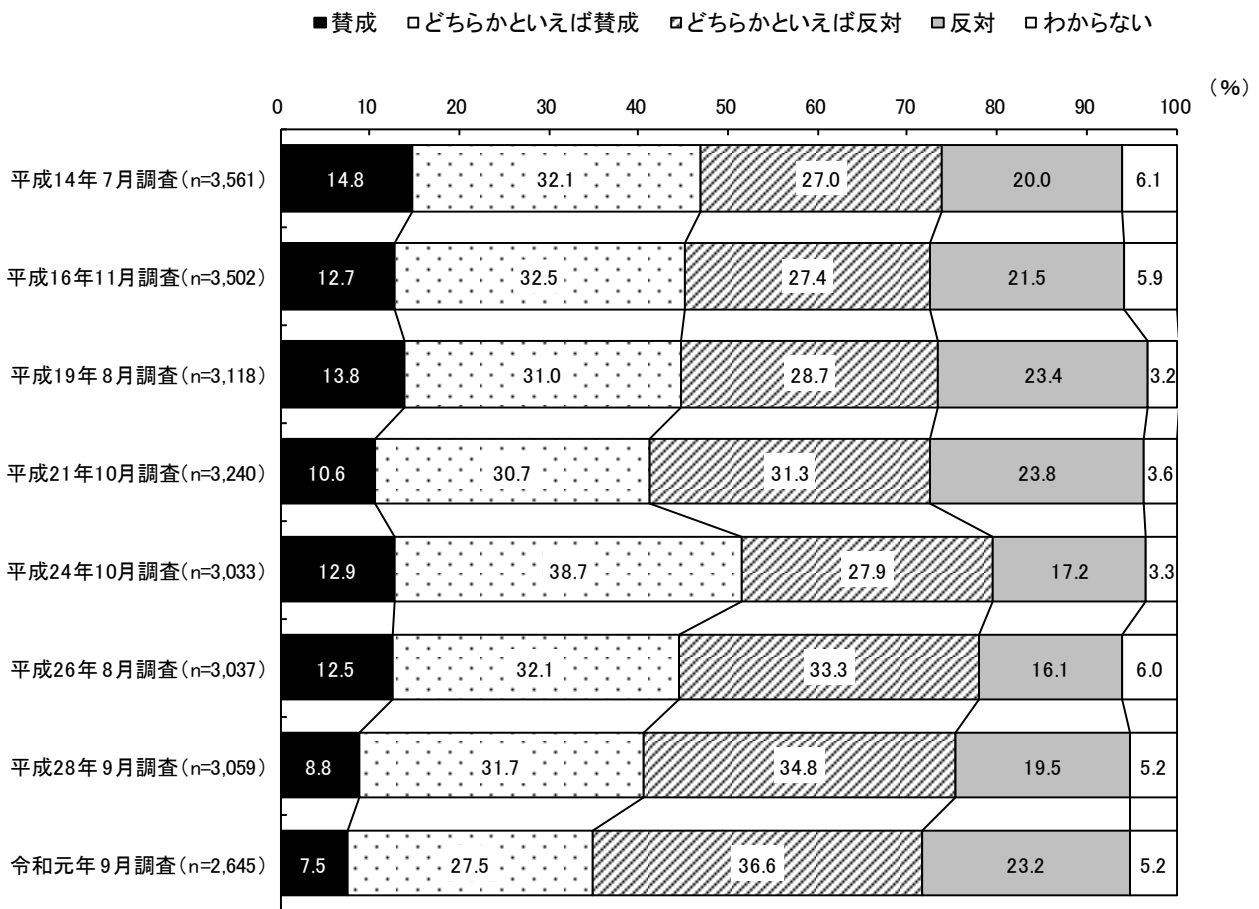
Ⅱ－6 社会制度・慣行の見直し

1. 性別役割分担意識の変化

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、賛成（「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計）は減少傾向にあり、令和元年9月調査では35.0%となっている。男女別にみると、平成14年7月調査以降、賛成の割合は女性よりも男性の方が高く、令和元年9月調査では男性が39.4%、女性が31.1%となっている。

図表Ⅱ－6－1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について（全国）

<全体>

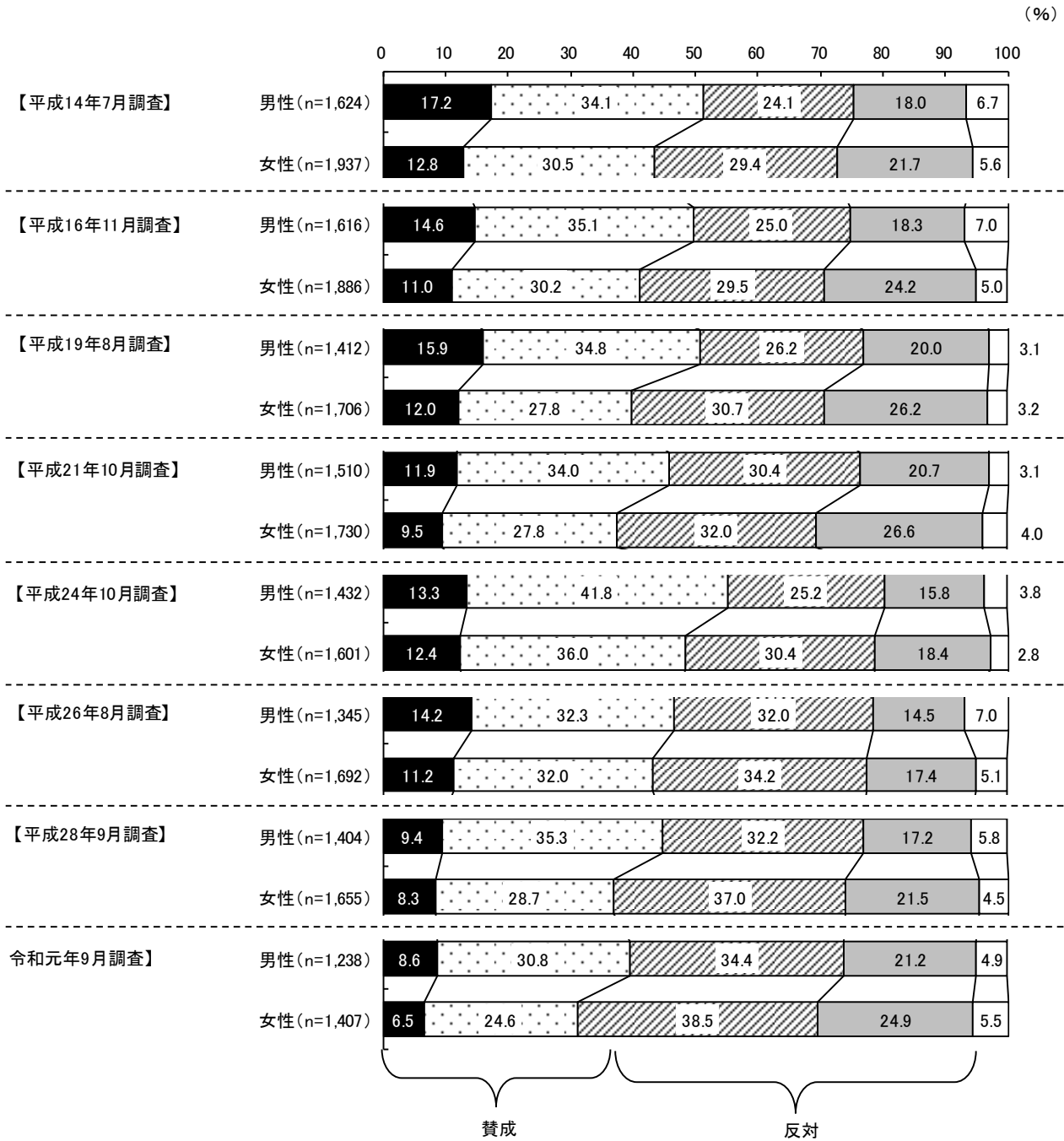


資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年）

Ⅱ 女性も男性もいきいきと豊かに暮らせる東京の実現

<男女別>

■賛成 □どちらかといえば賛成 ▨どちらかといえば反対 □反対 □わからない

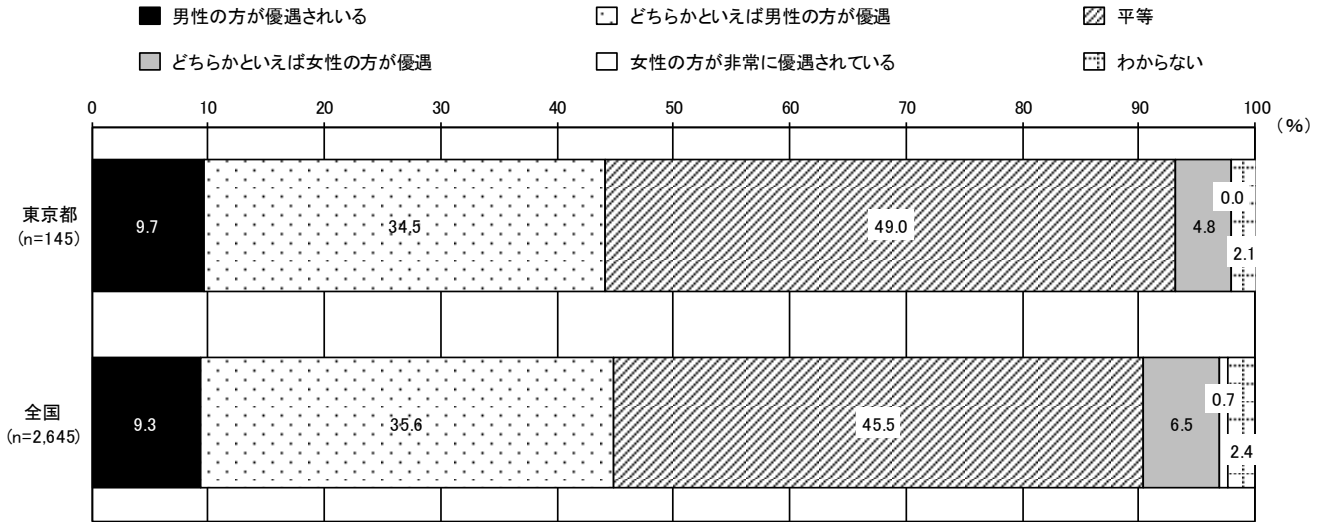


資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年）

2. 男女平等意識について

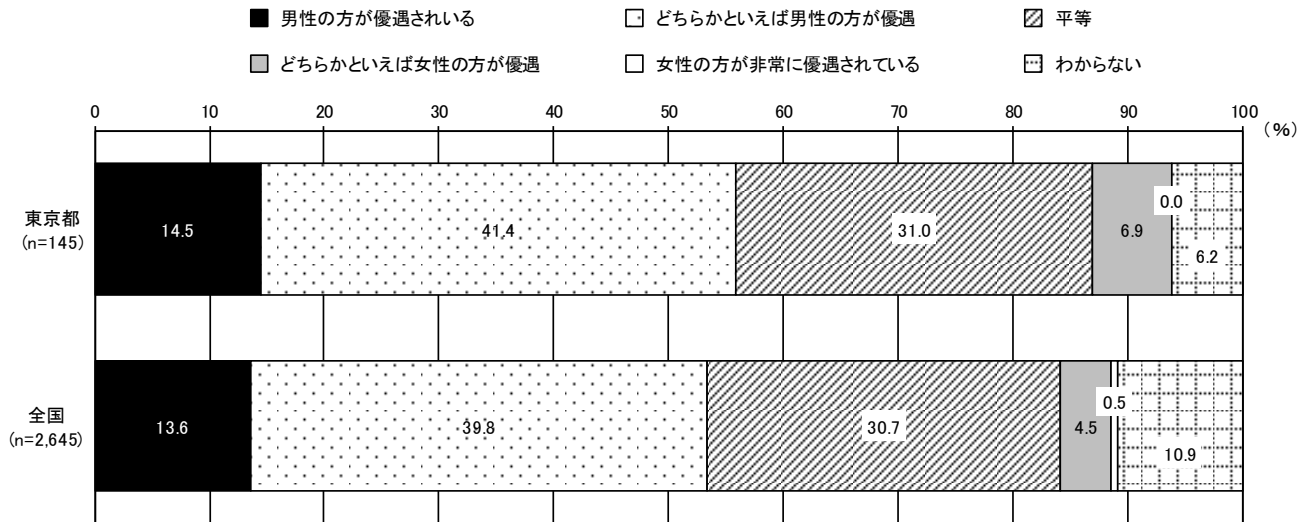
男女の地位の平等感は、家庭生活においては都・全国ともに約 5 割が平等と感じているのに対し、職場において平等と感じているのは、都・全国とも 3 割程度にとどまっている。

図表Ⅱ－6－2－1 男女の地位の平等感＜家庭生活＞



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年度）

図表Ⅱ－6－2－2 男女の地位の平等感＜職場＞

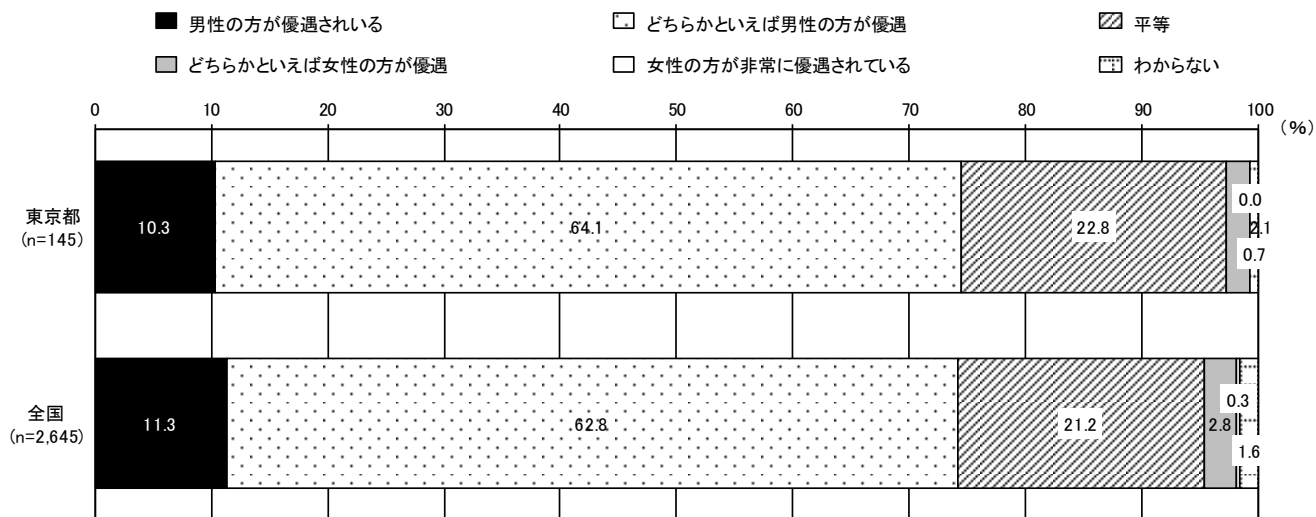


資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年度）

Ⅱ 女性も男性もいきいきと豊かに暮らせる東京の実現

社会全体における男女の地位の平等感は、都では22.8%、全国では21.2%となっている。都・全国とも約75%が「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と感じている。

図表Ⅱ-6-2-3 男女の地位の平等感<社会全体>

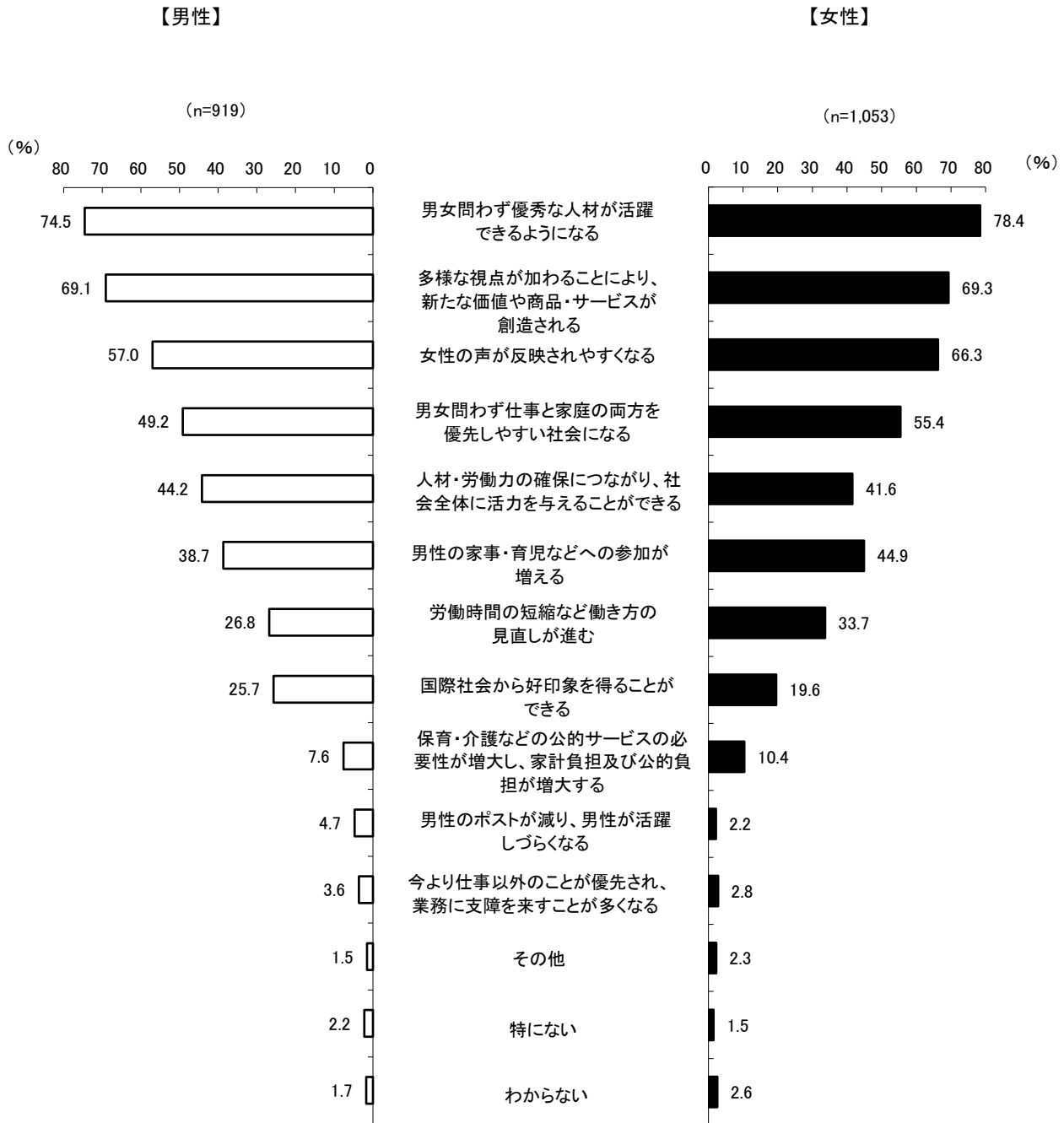


資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年度）

3. 各分野で女性リーダーが増えることへの影響について

都民を対象に女性のリーダーが増えることのような影響があると思うか聞いたところ、回答の上位3つは、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」、「多様な視点が加わることで、新たな価値や商品・サービスが創造される」、「女性の声が反映されやすくなる」であり、男性、女性とも共通である。

図表Ⅱ-6-3 女性リーダーが増えることへの影響（都）



資料：東京都生活文化局「男女平等参画に関する世論調査（令和2年度）」

Ⅱ 女性も男性もいきいきと豊かに暮らせる東京の実現

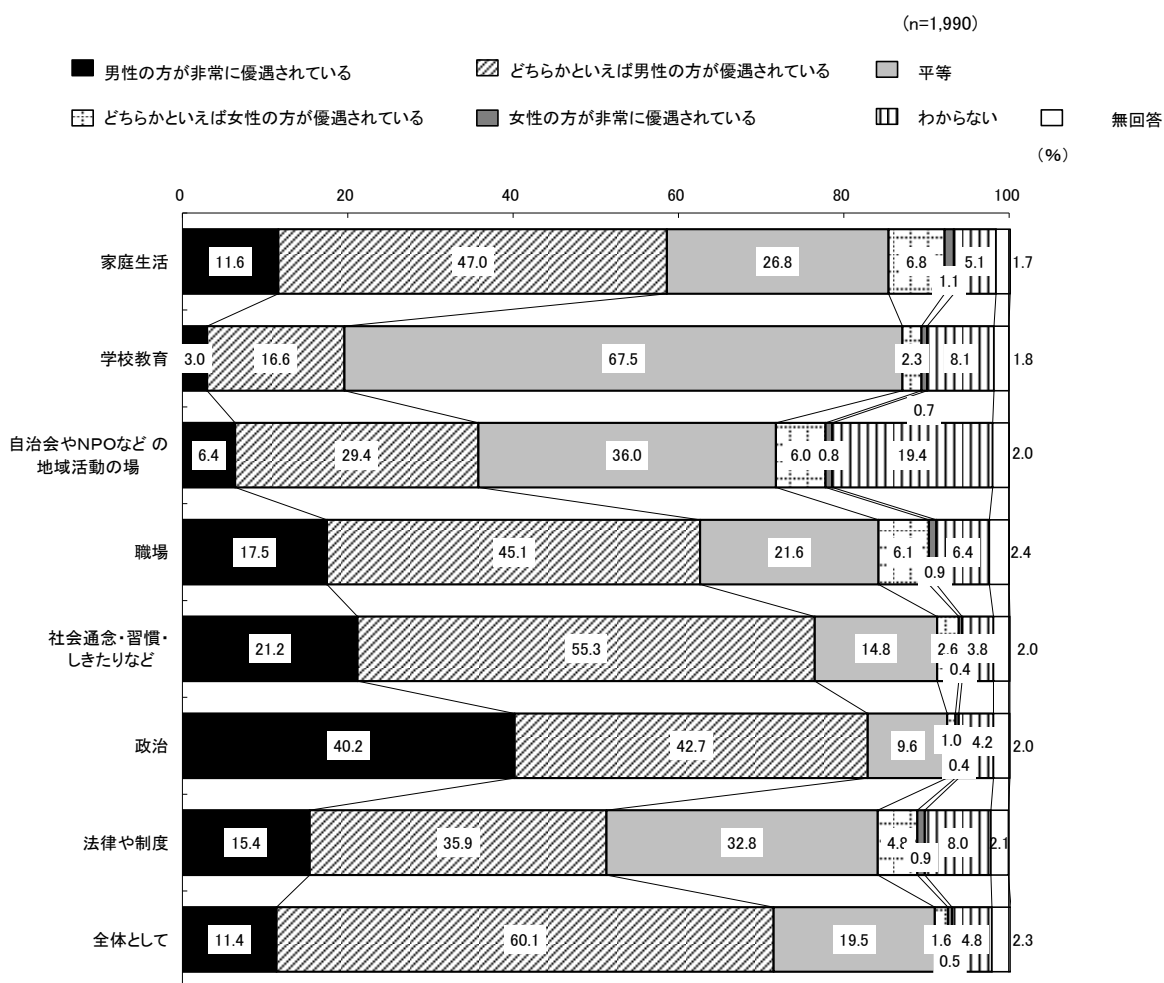
4. 男女の地位は平等になっているか

都民を対象に、男女の地位が平等になっているかを7つの分野と全体について聞いたところ、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性の方が優遇されている（計）」は「政治」が82.9%で最も多く、次いで「社会通念・習慣・しきたりなど」76.5%、「職場」62.6%の順となっている。

また、「平等」は「学校教育」が67.5%で最も多くなっている。

「全体として」は「男性の方が優遇されている（計）」が71.5%、「平等」が19.5%、「女性の方が優遇されている（計）」が2.1%となっている。

図表Ⅱ－6－4 男女の地位の平等感（都）



資料：東京都生活文化局「男女平等参画に関する世論調査」（令和2年度）